

関係者各位

第17回大気バイオエアロゾルシンポジウムを、2026年2月22日（日）－23日（月・祝）に近畿大学 東大阪キャンパス 3号館 501教室にて開催の予定で準備しております。

この会は、第1回以来、大気圏を長距離輸送する微生物の存在、黄砂と微生物の混合状態、微生物の長距離輸送機構、それらの微生物がもたらす各種影響などを集中的に取り上げてきており、その間にはいくつかの新しい研究の潮流を生んできました。関係研究者の研究発表の場としてあるいは将来の研究構想の場として極めて有効に機能してきております。今回も、バイオエアロゾルの起源・発生機構や拡散メカニズムの解明、その測定手法や検出手法、国内外の乾燥地・都市部・森林や海洋での観測調査、ヒトや動物その他の健康影響、農業や漁業への影響、雲形成・降水との関わりや気候変動影響、食文化や産業との関係、天然物や遺跡の汚損などの幅広い分野を取り扱います。

アジア圏では、日本国内の複数の大学によって、中国、韓国、モンゴル、シンガポールの研究者とともに大規模な観測調査が展開され、特に、海外研究者によるバイオエアロゾルへの新規参画も目立つようになっています。また、国内観測サイトも強化され、全国の大学や研究期間で継続的にバイオエアロゾルの観測研究がなされています。こうして、垣根を越えた多様な研究成果が続々と報告されるようになりました。その中でも、大気中を浮遊する微生物の遺伝子データベースが急速に充実しつつあり、気象観測や疫学的調査、動物実験のデータと組み合わせることで、バイオエアロゾルの動態におよぼす環境因子が特定され、その環境・健康影響も盛んに議論されるようになっています。そこで、今回は「バイオエアロゾルの動態と影響」をテーマに掲げ、環境や健康に関わる研究者がバイオエアロゾルを介して繋がれる場にしたいと思います。バイオエアロゾルの国内外での野外観測、その成果などに関心のある方は奮って参加いただけると幸いです。

参加のご意向や話題提供の有無についてあらかじめお伺いいたしたく存じますので、折り返しご都合をお知らせいただければ幸いです。よろしくお願い致します。

会場：近畿大学 東大阪キャンパス 3号館 501 教室

<https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/campus-guide/higashi-osaka/>

(〒577-8502 大阪府東大阪市小若江3丁目4-1)

日時：2026年2月22日（日）－23日（月・祝）

参加費：無料

研究交流会：2月22日（日）

近畿大学付近で開催し、会費 5000 円前後を予定しております。

参加予定の方は以下の URL にアクセスし、必要事項を記入し送信くださると
助かります。

<https://forms.gle/HFfsf2WNY7qDtixKA>



=====締め切り期限=====

参加申込： 1月13日（火）

要旨提出： 2月5日（木）

=====

2025年11月

バイオエアロゾル研究会 代表 岩坂泰信

第17回バイオエアロゾルシンポジウム実行委員会 現地実行委員長 牧輝弥